



## 武田社長定例記者会見概要

4月22日午後1時から、武田信二新社長による定例記者会見が、放送センター20階役員大会議室で開かれました。概要は以下のとおりです。

### 〈新社長 抱負〉

2020年の東京オリンピックに向けて、放送と通信が、どういう形で融合・連携していくのか、私は劇的に変化していくと思う。この先5年、10年を考えたとき、テレビが主役でいられるのか、強い危機感を持っている。テレビの作り手が将来像をしっかりと見据えて対応しなければならず、そのためには我々テレビマン一人一人が、頭を徹底的に使って考え抜き、「実行していく」ことが必要だと思う。就任直後の社員集会で、まずは「動こう」と呼びかけた。私もその先頭に立って、知恵を絞って、全力疾走するつもりだ。TBSはテレビ放送を開始して60周年を迎え、「未来につなぐ。From TBS」をキャッチフレーズに様々な特別番組を編成し事業を展開していく。今年を『新生 TBS』のスタートと位置づけ、全社一丸となって、視聴率でも、売り上げでも、トップを目指していく。

### 〈編成関連〉

始まったばかりの2015年度は、GP帯ともに全局で3位につけるまずまずのスタートを切った。期首の特番が高い視聴率を獲得したほか、バラエティでは4月12日にスタートした『この差って何ですか？』が初回から14%台の高い数字を取ることができ、今後が大変楽しみな状況だ。ドラマは金曜ドラマ『アルジャーノンに花束を』が11.5%でスタート、今週末にはTBSテレビ60周年特別企画として日曜劇場『天皇の料理番』が始まり、これでドラマの全ラインナップが出揃う。ベルト番組については、まずは『あさチャン！』『白熱ライブビビット』、そして午後の『ゴゴスマ～GOGO!Smile!～』の視聴率アップを図り、全日帯の立て直しに邁進する。また、戦後70年企画として3月に放送した『私の街も戦場だった』が、ギャラクシー賞月間賞を受賞することができた。今年には多くの戦後70年企画を予定しており、戦争体験を風化させないよう、全ての世代に見ていただけるような番組を作りたい。

### 〈営業関連〉

2015年度の営業見通しは、ネットタイムでの上期のレギュラーセールスについて前年を上回るように頑張っている。単発セールスでは、今年は8月に『世界陸上北京』という大型案件があり、セールスに力を入れている。ローカルタイムは、レギュラーの上期の売り上げが前年並みとなる見通しだ。スポットについては、4月はほぼ前年並みとなりそうで、5月以降は前年並みの売り上げを目指す。

## ＜事業関連＞

「SASUKE」の北欧を除く欧州全域でのフォーマット権の販売について、このたび電通との間で合意した。今後電通グループである「電通イージス・ネットワーク」の協力のもと、海外展開の更なる拡大を目指す。「SASUKE」については、イギリス民放最大手の ITV で、英国版「Ninja Warrior UK」の放送が今月 11 日に開始され、土曜よる 7 時からの放送で同時間帯トップの視聴率を獲得した。また、アジアにおける現地版制作は、今月末からベトナムでの収録が始まり、8 月から国営放送の VTV で放送予定だ。ベトナム VTV とは、日越国交 40 周年記念ドラマを共同制作するなど友好関係にあり、当社で放送した連続ドラマ『タイヨウのうた』のリメイク版の制作が決定している。今回は、リメイク権の販売だけでなく、制作コンサルタント業務も行っており、ベトナムでの放送は、今年秋の予定だ。

舞台関連では、5 月 13 日から赤坂 ACT シアターで「TAKE FIVE」を上演する。2013 年に放送した人気連続ドラマの舞台化で、LED を用いた映像を効果的に使うことで、テレビ局ならではのエンターテインメント作品になっている。Kis-My-Ft2 の藤ヶ谷太輔さんと、元宝塚トップスターの蘭寿とむさんという華やかなお二人が、赤坂 ACT シアターに初めて登場する。

## ＜ラジオ関連＞ TBSR&C 入江社長

3 月 30 日から新編成がスタート。生放送枠になった早朝 3 時～5 時の新番組に対しては好意的なメールが多いとのことで、この時間でもツーウェイの番組が定着しつつある手ごたえを感じている。現在 4 月の聴取率調査中であり、TBS ラジオの新旧各番組の数字、全体のセツインユースの行方に注目したい。4 月 15 日に亡くなられた愛川欽也さんは TBS ラジオに大変かわりの深い方だったため、様々な番組が思い出を伝えた。5 月 10 日には小島一慶さんを案内役に、懐かしい音源を聞き、愛川さんと親交のあった方々と故人を偲ぶ特別番組を編成する。

この秋から冬にかけてスタート予定の「FM 補完放送」について、TBS ラジオ・文化放送・ニッポン放送の 3 局は、呼称をよりわかりやすく伝えるために「ワイド FM」に改めた。今後リスナーや受信機メーカーにも「ワイド FM」をアピールしていく。

営業状況、3 月は収入・利益とも前年を下回るも利益は残し、着地に向けて積み上げることができた。2014 年度通期は、減収増益の見込み。今年度に入って、第 1 四半期は比較的堅調に推移しているが第 2 四半期以降は不透明であり、一方ワイド FM の費用負担もあることから、道のりは厳しいとの認識である。

以上